

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年8月

主な出来事

- 5日、ロス・ロイター特派員のビザが更新されず、同特派員は、コンゴ(民)を出国した。
- 11日、昨年11月5日から電波を切断されていたキンシャサの RFI ラジオ放送が、10日深夜から再開された。
- 21日、野党プラットフォーム「Rassemblement」は、ズマ SADC 議長がメディアを通じ、2017年中のコンゴ(民)大統領選挙の実施は不可能であると強く主張したことに関し、「憤りを禁じ得ない」と反論した。これに関し、AU は、31日に発表した「平和・安全保障理事会」の結論文書で、ズマ議長の意見を支持した。
- 26日、国内全26州のうち、知事の不信任決議が出された4州(チュアパ、オー＝ロマミ、チョポ、オー・カタンガ)と、知事が辞任した3州(南キブ、クウィル、南ウバンギ)、及び副知事が死亡したバ＝ズエレ州の合計8州で、州知事及び副知事選挙(間接選挙)が行われた。
- 28日、中央カサイ州カナンガ市で、軍人に追いかけられたジャーナリストが保護を求めるため、同市の MONUSCO 施設に走って逃げた。その際、MONUSCO の入口で、MONUSCO 関係者と軍人らがもみ合いとなった。
- 31日、政府/GENI/CNSA の3者による選挙プロセス評価ワークショップの共同コミュニケで、治安問題で選挙人登録作業が遅れていたカサイ州、中央カサイ州、ロマミ州の一部(Luilu 地区、Kamiji 地区)で、選挙人登録作業にかかる研修、資機材の運搬を9月4日から開始すると発表した。GENI は、選挙日程の作成に必要な要素を揃え、それを基に至急、現実的な日程を発表する。

1. 内政

(1)キンシャサ市での多発的発砲騒ぎ

・7日午前中、キンシャサ市のセレンバオ等、複数の地区で治安関連施設等の襲撃事件が発生した。警察によるとこの襲撃事件による死者数は12名で、Bundu Dia Kongo(BDK、中央コンゴ州を本拠地とする分離主義的宗教集団)による犯行。

(2)チバラ首相がフランコフォニー(OIF)および GENI と会談

・7日、チバラ首相は、仏語圏(フランコフォニー)国際機関(OIF)代表団と会談し、昨年12月31日の政治合意に基づいた選挙の実施につき意見交換を行った。OIF 代表団は、選挙の実施にあたっては、治安の維持と表現の自由の両立が重要であると述べ、チバラ首相は、選挙実施に対する自らの個人的コミットメントを再度述べた。

・同日、OIF 代表団は GENI とも会談し、GENI は OIF に対し、選挙スケジュール策定のための技術的支援を要請した。OIF は(EU、UNDP 同様)GENI への常駐スタッフの配置を決定した。

(3)8州における州知事及び副知事選挙の実施

・26日、国内全26州のうち、知事の不信任決議が出された4州(チュアパ、オー＝ロマミ、チョポ、オー・カタンガ)と、知事が辞任した3州(南キブ、クウィル、南ウバンギ)、及び副知事が死亡したバ＝ズエレ州の合計8州で、州知事及び副知事選挙(間接選挙)が行われた。新たに選出された7名の州知事は、与党 PPRD の所属が4名で、残りの3名も与党に非常に近い無所属候補。

(4) 政府/CENI/CNSA による第1回選挙プロセス評価ワークショップ

・31日、28日から中央カサイ州カナンガ市で第1回選挙プロセス評価ワークショップを行っていた政府/CENI/CNSA の3者は、同ワークショップの共同コミュニケで、これまでに、当初予想有権者数の98.9%となる40,692,273名の選挙人登録が行われたと発表した。治安問題で選挙人登録作業が遅れていたカサイ州、中央カサイ州、ロマミ州の一部(Luilu 地区、Kamiji 地区)は、作業にかかる研修、資機材の運搬を9月4日から開始する。また、CENI は、選挙日程の作成に必要な要素を揃え、それを基に至急、現実的な日程を発表する。

(5) 野党の動向

ア 野党プラットフォーム「Rassemblement」と CENI の会談

・2日、野党プラットフォーム「Rassemblement」は CENI と会談し、昨年12月31日の政治合意の履行、特に9月1日までの選挙日程の公表と9月末までの選挙公示を再度要請した。同日、CENI はパートナー国・機関に対する選挙日程に関する説明会を開催し、参加者からは、「現実的」な選挙カレンダーの策定と、選挙プロセスにおける透明性確保の重要性が述べられた。

イ 「Rassemblement」によるゼネストの呼びかけ

・8日-9日、「Rassemblement」は、キンシャサ市および国内主要都市でゼネスト(ville morte)の実施を呼びかけた。両日とも、特に午前中は経済活動が停滞したものの、午後から商店は通常通り営業を開始した。

ウ シンディカ・ドコロ氏が市民運動「Les Congolais Debout!」を始動

・10日、シンディカ・ドコロ氏(Sindika Dokolo)はパリで、「Les Congolais Debout!(コンゴ人よ立ち上がれ!)」という市民運動を始動させた。同氏はドス・サントス・アンゴラ大統領の娘婿でコンゴ(民)人。
・18日、LUCHA、Filimbi 等の若者による民主化推進グループは、「Les Congolais Debout!」を始動させたドコロ氏とともにパリで集会を行い、「コンゴ(民)市民によるmanifesto」を発表した。

エ UDPS 幹部が欧米外遊

・14日、UDPS のカブンド幹事長とフェリックス・チセケディ副幹事長がブリュッセルに到着した。カビラ政権に対する経済制裁強化に関する欧米諸国からの支持を取り付けるため、仏、英、独、米を訪問する。
・21日、カトゥンビ前カタンガ州知事は、ニューヨークで、フェリックス・チセケディ UDPS 副幹事長に合流した

オ 「Rassemblement」がズマ SADC 議長の発言に反論

・21日、野党プラットフォーム「Rassemblement」は、ズマ SADC 議長がメディアを通じ、2017年中のコンゴ(民)大統領選挙の実施は不可能であると強く主張したことに関し、「憤りを禁じ得ない」と反論した。

2. 外交

(1) コンゴ(民)・南ア間の相互査免協定

・2日、ラマザニ・シャダリ副首相兼内務大臣は、コンゴ(民)・南ア間の査証免除協定の署名により、外交及び公用パスポート所有者は、両国間の移動に際してビザが不要となる旨述べた(7月31日署名済み)。

3. その他

(1) ロイター特派員のビザが更新されず

・5日、ロス・ロイター特派員のビザが更新されず、同特派員は、コンゴ(民)を出国した。

(2) RFI 放送の再開

・11日、昨年11月5日から電波を切断されていたキンシャサの RFI ラジオ放送が、10日深夜から再開された。

(3) カビラ大統領が中国の支援による国軍(FARDC)の編成式に出席

・12日、カビラ大統領は、オー＝ロマミ州カミナ軍事基地で行われた、第32即応部隊編成式に出席した。同部隊は、2008年に署名されたコンゴ(民)・中国軍事協定の枠組で、18か月間、中国軍による訓練を受け、「ニンジャ(Nindja)」と名付けられた。

(4) BDK のンセミ指導者による蜂起の呼びかけ

・14日、Bundu Dia Kongo(BDK。中央コンゴ州を本拠地とする分離主義的宗教集団)のムアンダ・ンセミのメッセージ動画(言語:リンガラ語、キコンゴ語)がユーチューブ上に掲載された。ンセミは同動画で、21日に、反カビラ大統領のデモ等を行うよう呼びかけた。(21日にデモ行進は発生しなかった。)

(5) 国連安保理における専門家グループ殺害に関する会合にシェ・オキトウンドウ外相が出席

・17日、国連安保理は、中央カサイ州で殺害された専門家グループ(GoE)に関する会合を行い、コンゴ(民)からは、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣が出席した。

(6) 保護を求めたジャーナリストをめぐる MONUSCO とコンゴ(民)当局が小競り合い

・28日、中央カサイ州カナンガ市で、軍人に追いかけられたジャーナリストのディイ氏(Edouard Diye Tshitenge)が保護を求めため、同市の MONUSCO 施設に走って逃げた。その際、MONUSCO の入口で、MONUSCO 関係者と軍人らがもみ合いとなった。

・29日、シディク MONUSCO 特別代表は、MONUSCO 施設内は不可侵であると非難し、コンゴ(民)政府に対し、本件の責任者を司法に付し、また、再発防止に必要な措置を執るよう求めた。メンデ政府報道官は AFP の問いに対し、兵士らは MONUSCO の外で制止されており、敷地内には入っていないと反論した。

(7) 選挙時期に関する AU の見解

・31日、コンゴ(民)の状況を協議するため23日に開催された第712回アフリカ連合(AU)「平和・安全保障理事会」の結論文書が出され、この中で、AU は、コンゴ(民)の選挙日程に関しズマ SADC 代表が20日に行った、「2017年12月に選挙を行うのは非現実的である」との発言に同調した。